

留学報告書 II (2021 年度留学生)

塾内在籍校・学年(派遣時)	慶應義塾湘南藤沢高等部 5 年
留学先校名	Shrewsbury School
留学期間	2021 年 9 月から 2022 年 7 月まで

留学を振り返って

留学先では、期待どおりの生活を過ごせましたか？

イギリス国内でも特にエリート校である Shrewsbury School に一年間留学することができ、とても幸いでした。Shrewsbury では期待以上の一年間を送ることができました。座学の面だけでなく、課外活動もとても充実していました。

まず何よりも、様々な仲間と出会ったことはとても貴重な経験だと思いました。友人の中には、ハンガリー、ドイツ、ロシア、ウクライナ、シンガポール、マレーシア、中国出身などとても多様なバックグラウンドを持つ人が多かったです。これらの友人と日々過ごすことを通して、互いの文化への理解そして自分の文化への誇りをより深めることができました。

また、イギリスのボーディングスクールならではの体験がたくさんできました。伝統ある学校行事や、House スピリットなど日本の学校とは異なる独特な経験をすることができました。

この 1 年間で Shrewsbury の一番の長所であると感じたのは、学校のコミュニティーです。寮内、部活内、授業内など、多くの場面で Salopian (Shrewsbury の生徒) であるコミュニティーが重視されていました。互いにサポートしあうという精神のおかげで、初日から学校に馴染むことができました。

唯一の短所は、あまり縦のつながりが持てなかったことです。ほとんどの活動が学年内の生徒で収まっていたため、違う学年の生徒に出会う機会がとても少なかったです。寮の中でも中学生と高校生で分かれている状況で、学年外でできた友人が限られていたと感じました。

クラブ活動や課外活動など、学業以外の活動について教えてください。

Sports

◆ The Hunt (RSSH)

Shrewsbury では The Hunt と呼ばれる伝統のあるクロスカントリー部があります。実は、クロスカントリーの発祥は Shrewsbury School だと言われています。私は 1, 2 学期中 Hunt に所属していました。Hunt は学校内で唯一男女混合でトレーニングをするスポーツでした。練習のメニューは様々で、軽く 10km 市内を走ったり、バスで近くの山に行き 15km 程走ったり、近くの練習場に行き自主練習をしたりします。山奥の道を走るなど、クロスカントリーならではの体験をすることができました。

◆ Dance

1, 2 学期の間は、週に 3 回ダンス部の練習がありました。バレエ、コンテンポラリー、選抜チームといった 3 つのジャンルの練習が各曜日にありました。バレエとコンテンポラリーは 3 月の発表会に向けて練習をしました。選抜チームは 1 年中練習があり、様々な大会に向けて踊りを練習しました。

◆ Athletics

3 学期は Hunt が終わり、多くのメンバーが Athletics (陸上競技) に移ります。Shrewsbury は陸上もとても強く、一緒にトレーニングをしていた仲間の中には、国内で 1 位やヨーロッパで 3 位にランキングするといった素晴らしい選手もいました。

◆ Rowing (RSSBC)

3 学期は初心者向けのローウイングに週 2 回参加しました。毎回 8 人乗りのボートに乗り、学校の前を通る Severn 川で練習をしました。ローウイングはイギリスならではのスポーツであり、学校の周りに川があるととても好ましい状況のため、Shrewsbury では一番人気のあるスポーツです。Summer Term は特に多くの人々がボートハウスにいます。

Thursday Activities

木曜日の午後は Thursday Activities と呼ばれる活動の一つに参加することが必須でした。

◆ Experimental Techniques in Science for Overseas Students (ETSOS)

1 学期は ETSOS と呼ばれる、化学を履修する留学生向けのアクティビティに参加しました。ここでは、他の生徒たちが GCSE (イギリスの中 2~高 1 の間に勉強するカリキュラム) 中に学んだ範囲について、そして重要な実験テクニックを学びました。学期の後半では A-Level の範囲にも入り、他の生徒が来年行う実験をする機会もありました。

◆ Medical Volunteering

2, 3 学期は近くの Royal Shrewsbury Hospital という NHS (イギリスの国民保健サービス) の病院でボランティア活動を行いました。毎週木曜日、2 時から 5 時の間様々な病棟で医者と看護師たちの手伝いを行いました。イギリス独特の NHS の病院の雰囲気を知ることができたとても貴重な機会でした。

Societies

様々な分野に関する活動を行う部活 (Society) があり、誰でも気楽に参加できました。

◆ Medical Society

医学に興味のある生徒に向けた Society です。医学の道に進むために必要なスキルや知識について話し合ったり、実際に NHS の医者が講義をしに来てくださったりします。ミーティングは不定期で必要に応じてありました。しかし、常に担当の先生が医学部に関するリソースを Teams に挙げてくれました。

◆ Eco Committee

2 週間に 1 回開かれる環境保護に注目する Society です。食品ロス、リサイクル、衣類ゴミ、温暖化などいくつかのトピックに関してのグループがありました。私は食品ロスと衣類ゴミのグループに所属し、食堂での食品ロス削減に関する案を学校に提出したり、生徒達からいらなくなった服を集め、古着セールを開催したりしました。

◆ Model United Nations (MUN)

週に 1 回 MUN (模擬国連) のミーティングに参加しました。毎週 3 つのトピックについてそれぞれが異なった国の代表として抗議を行いました。大会やコンファレンスが 2, 3 回ありましたが、スポーツの試合と重なってしまったため、参加できませんでした。

その他

◆ House Debate

寮対抗のディベートに参加しました。政治や倫理に関するとても高度な内容のトピックについてディベートを毎週行いました。高校のディベートでは珍しい Oxford-Union Style に沿って行われていました。このスタイルに慣れるのに苦労をしましたが、数回 Best Speaker を受賞することができ、寮のディベートチームに貢献することができました。

◆ Chicago

1 学期に開催された Chicago というミュージカルのオーディションに合格し、主にダンサーとして参加しました。週に 2, 3 回リハーサルがあり、1 学期末の公演に向けて練習を積み重ねました。演劇を履修している生徒が多いためとても本格的であったプロダクションに驚きました。

◆ Shewsy Youth Club

学校は Liverpool の貧しい地域に Shewsy Youth Club を 100 年以上前に立ち上げ、それ以降募金を通し支え続けています。私は 2 学期にここに 2 泊 3 日で泊まりに行くボランティア活動に参加しました。そこには幼稚園から中学生までの子供たちが毎日学校帰りに遊びに来ていました。全く異なる環境で育ってきた子供たちとの交流はとても貴重な経験でした。

◆ David Harrison Presentation

数学に関するトピックについて発表をする David Harrison Presentation に参加しました。私はパンデミックについて数学を使ってモデルするというテーマで発表をし、2 位を獲得することができました。

◆ Olympiads

学校を通して各教科の全国・世界大会 (Olympiad) に数回参加しました。化学と生物では金、数学では銀賞を獲得することができました。

◆ House Competitions

寮対抗のイベントが数回開催されました。私は、Paperchases (クロスカントリーレース)、Steeplechases (リレー対決)、House Rugby、House Basketball などいくつかの大会に選ばれました。毎回、選手か応援団かに関わらず、寮の全員で House Colour のフェイスペイントをつけ仲間を応援しあいました。イギリスのボーディングスクールならではの経験であり、House の団結力にいつも圧倒されました。

ルームメイトはどのような方でしたか？

私が滞在した寮では、学期ごとに部屋交換がありました。(1学期目のみ半学期で交換がありました) 私は1学期の後半と3学期にルームメイトがいました。

最初のルームメイトは、同じく新入生であったハンガリーから留学してきた同級生でした。彼女は初日からとても気が合う友人であり、毎日自由時間の間は様々な会話をしました。お互いハンガリーと日本の文化を料理や行事を通して紹介することもありました。

二人目のルームメイトはドバイに10年間そしてオランダに3年間住んでいたイギリス人でした。入寮当時は部屋が隣で、互いに慣れない環境で支えあった、貴重な友人でした。彼女はRowingでいつも忙しくしていました。彼女の誘いがあり、私もSummer TermはRowingに挑戦してみました。

アドバイザーとの面会がありましたか？ どのような内容でしたか？

私のアドバイザー(Tutor)は化学の先生でした。半学期に一度程度の頻度でTutor Meetingをし、そこでレポート、試験、進路について相談しました。先生は私のEPQ(論文)の担当教員でもあり、他のTuteeもこのEPQグループにいたため、週に2回あったEPQの授業でTutor Groupとして話すことも多くありました。

また、3学期の初めに先生が私たちのグループをTutor Mealに連れて行ってくださり、町で先生と食事をしました。毎月先生の家に行き食事をするなどといったTutor Groupもありました。

学業について

各授業について授業の内容・進め方・課題・試験・日本との比較などについて触れながら記入してください。

日本の学校との一番の違いは、パソコンの活用でした。ペーパーレスが進んでいて、授業へのパソコンの持参は必須であり、配布物はOneNoteというソフトを通してもらうことが多かったです。また、6th Formのクラスは全て少人数(10~12人程度)である点も日本と大きく異なりました。試験に関しては学期ごとではなく各教科内で単元ごとにありました。唯一1学期の中間にProgress Test、3学期の終わりにEnd of Year Examsがありました。

◆ Biology

生物は生化学と生物学に別れていました。どちらの分野でも各単元の内容を学んだあとは、実験を通して実際に目で見て新たに学びを深めるといったスタイルでした。日本に比べてディスカッションや実験を通しての学びが多いと感じました。課題は時々あり、授業内容よりも深掘りした内容について学ぶことが多かったです。単元が終わる度にTopic Testがありました。

◆ Chemistry

化学は有機化学と無機化学の二つの分野に別れていました。それぞれの分野の授業が毎週4コマあり、そのうちの2コマは実験を行いました。生物とは違い、実験から学ぶというよりも、実験テクニックを身に着けることと、目で確かめることが重視されていました。課題は毎回あり、練習問題や過去問がほとんどでした。化学も同じく単元が終わる度にTopic Testがありました。

◆ Further Maths

数学はSingle MathsとFurther Maths(上級数学)の二つがありました。私が履修していたFurther Mathsは2教科分に値しました。Further MathsはPure Maths(計算系), Statistics(統計学), Mechanics(力学)の3つの分野に別れていました。授業の進め方はSFCと同じで、まずトピックの説明から始まり、演習を行いました。試験は授業内で行うことはなく、1学期の中間試験と3学期に期末試験のみでした。

◆ EPQ

EPQ(Extended Project Qualification)とは日本の論文に似た科目でした。本来はA-Levelを3科目のみ履修している生徒が対象の科目ですが、私は英語の論文を書く経験をしたため、履修しました。EPQは自主的に進めることが重視されていて、担当教員がアドバイスをしてくださることもありました。主に自分で計画づくり、リサーチ、文章の作成を行いました。また、最終作品よりもそれまでに至った計画も重視されていて、毎日EPQに関する日記をつけることが大切でした。テーマは履修している科目の範囲外である限り自由に設定することができ、私は遺伝子編集の倫理について書きました。リサーチ内容はオンライン情報にとどまらず、学校の教員や大学教授などに質問をすることもありました。

今後について

この派遣留学を通して、自分自身にどのような変化があったと感じていますか。

Shrewsbury では授業内や課外活動でもお互い意見を自由に交換できる環境にありました。異なる意見に気づき、違いから学ぶことの大切さがとても重視されていました。そのため、私自身もこれまで以上、積極的に自分の意見を発することができるようになりました。

寮生活では友人達との関係が一番大切でした。親から離れて生活をする中、互いにサポートし合う必要がありました。そして、イギリスではメンタルヘルスは体の健康と同等のように考えられていました。そのため、どのような場面においても支え合う関係を大切にすることができました。

留学中は周りの生徒に自分のバックグラウンドについて説明する機会が多々ありました。このような経験を通して、日本の文化に対する新たな気づきや理解を得ることができました。これまでアメリカに住んだ経験がありましたが、歴史の長いイギリスでは文化と伝統への興味と理解が深い人が多く、また、様々なバックグラウンドを持つ友人達が日本に興味を持ってくれたことや、外から日本について見ることができた結果、改めて日本人であることを誇りに思えるようになりました。

また、自分が進みたい道について深く考えることができました。Shrewsbury では様々な面で進路のサポートがありました。NHS の病院でボランティア活動をしたこと、Medical Society を通して医学に関する知識を深めたこと、EPQ のテーマを通して医療倫理について考えることができたことなど多くの経験を通して、医学の道へ進みたいとより強く思いました。留学前も非常に興味を持っていましたが、この一年間で必ず進みたい道だと思うようになりました。

今後の派遣留学生へのアドバイス

(事前に日本で学習しておいた方がよいことや、用意しておいた方がよいことがあればお知らせください)

とにかく様々なことに挑戦してみることが、一番大切だと感じました。入学当初は特に新入生に対しての Introduction などが無いので、様々なスポーツや Society の雰囲気を知るためには、できる限りのものに参加してみるのが一番だと感じました。寮とクラス外の友達を作るのにも良い機会になりました。

学業の面では、渡英前に少し GCSE (イギリスの中 3~高 1 の間に勉強するカリキュラム) の範囲に目を通しておくが良いと思います。私は Revision Guide を購入しましたが、オンラインにも便利なリソースがあります。私が履修していた数学、化学、生物の範囲は日本のカリキュラムに似ていたのですが、科目内で使う用語を覚えるのが入学当初は大変でした。また、教科ごとに Clinics と呼ばれる復習会が毎週開かれていて、クラス外で先生方に質問をし、もう一度トピックの復習レッスンをしていただくことができるので、これらのセッションを有効に活用することもお勧めします。

以上

